

## 歯科技工士も知っておくべき知識 ～診断、設計、ガイド～

AI や CAD/CAM が発達してきている現在、世の中は急速に利便性が増してきている。歯科界、歯科技工士業界も新たな時代が進んできている。今ではインプラント技工において CAD/CAM を使うのが当たり前ようになってきている。コンピューターの性能が高くなり、AI が発達してクラウンを自動的に設計するものも出てきている。従来どおりの歯科技工だけでは AI に仕事を取って代わられるのではないだろうか？

この時代の流れに私たち歯科技工士もついていかなければならない。コンピューターを使った歯科技工をする上で従来からの歯科技工の知識が重要なのはもちろん、さらに新しい知識が必要になっている。

AI 化が進んだ時に人間に残る仕事は「創造」「信用」「感情」「体」「手先」にかかわるもの、中でも「創造」「信用」「感情」の3つはとても重要であるといわれている。

私たち歯科技工士の仕事は「体」にかかわる仕事で「手先」を使った仕事である。

そしてそこからもう一歩進んで「信用」を得るために。

私たち歯科技工士は何を勉強しなければいけないのか？

歯科技工士はどうならないといけないのか？

私たちは考えなければならぬだろう。

一つの考えとして、コミュニケーションの重要性。

私たち歯科技工士の今後は提案型の仕事が大切だと思われる。

インプラントが埋入され印象採得がおこなわれてからが仕事ではない。インプラントの手術をする前から埋入をどの位置にするのが良いのか、埋入深度によっても設計が変わり、材料は何が良いのか、咬合状態はどうなのか、など。最終補綴装置の設計はそれぞれ症例により異なり手術前からある程度は予測される。インプラント埋入前から歯科医師とディスカッションをすることによって歯科技工士としての意見を最終補綴に反映することができる。歯科技工士としてもっと役に立てることはないか。一人一人の患者さんにとってより良くインプラント治療をするために歯科医師とディスカッションするのが大切だと思われる。

そしてディスカッションをするためにはもっと歯科技工士は知識が必要と思われる。

今回の講演では診断、設計からインプラント埋入用ガイドへ、そして最終補綴に至るまで具体的にどのような知識を歯科技工士が知っておくべきかを話したいと思う。